

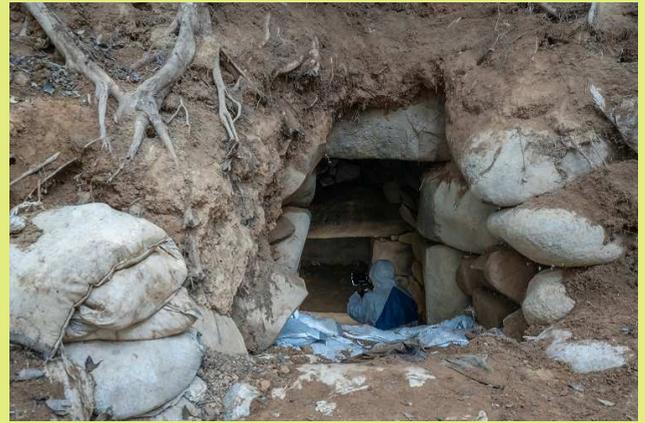
## 《最新技術で記録し、伝える》

～「福岡県装飾古墳総合調査」の成果～

福岡県内には78基の装飾古墳があり、熊本県について全国で二番目の数になります。特別史跡王塚古墳など、厳重に管理されている装飾古墳もありますが、実態が把握されていない古墳も多くあります。福岡県では令和4～6年度にかけ、「福岡県装飾古墳総合調査」を行い、装飾古墳を保存活用していく基礎資料を作成しました。

今回は石室の中に入り装飾の現況を確認する他、デジタルカメラでの高画質の記録撮影、22基については石室の三次元画像作成するなど、多くの成果が得られました。今後、地震などが起こった際の復旧のデータとしても活用が可能です。

これまで石室の実測は、方眼紙を用いた手測りで数日から1週間の時間を必要とし、入室による温湿度の変化によるカビの発生など石室内部環境に対して大きな負担となっていました。今回の調査では、1基の石室につき500枚以上の写真を撮影し、SfM (Structure from Motion) 技術により合成、三次元画像を作成しました。この方法により石室への入室が1～2時間で済むようになり、石室内環境への負担を最小限に留めることができました。ただし、巨大な石室では、三次元化の処理に一晚を要することもあり、また、三次元画像に欠失があれば、再入室、再撮影が必要となります。今回の三次元画像が、令和の段階での現況記録になることを踏まえ、可能な限り多くの写真を撮影しました。



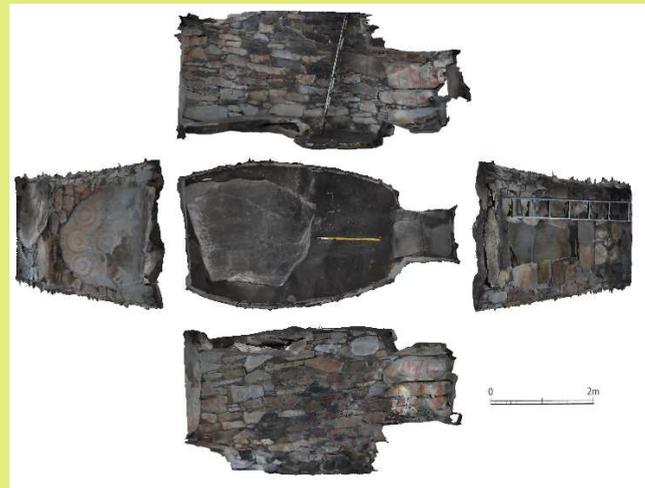
桜京古墳（宗像市）防護服着用での作業 ※石室内通常非公開



砥上観音塚古墳（筑前町）石室内部 デジタルカメラにより新撮



萩ノ尾古墳（大牟田市） SfM用の撮影ポイント



日岡古墳（うきは市）石室 正射投影画像

# 令和7年度上半期の展示

## 特集展示「新出薩摩塔と福岡の大陸系文物」

令和 7年 6月17日(火)～8月17日(日) 第1 展示室(美術コーナーの一部)

薩摩塔とは、昭和33年(1958)に薩摩で初めて文化財関係者に存在が認識されたことからその名がある石塔です。やがて平戸や福岡平野周辺からも確認されるようになり、現在では50基を数えるに至っています。その分布は、大阪の堺に1例がある他は全て、九州の西側にだけ存在しているという特徴的なものです。このような薩摩塔は、13世紀から14世紀にかけての中国で、つまりは南宋時代から元時代にかけて制作されて、中国の海商たちによってもたらされたものと考えています。その薩摩塔の新たな1例が、福岡市西区の今津から見出されました。今津は12世紀に新たに開かれた国際交易港でしたので、ついに出たかという思いです。元時代のものと見られます。これからこの薩摩塔も新たな資料としつつ、薩摩塔や今津について研究を深めてゆきたいと考えています。この度、御所蔵者の御高配により、この薩摩塔が展示できることになりました。そこでこれまでも展示室に出てもらっていた、大陸系の資料と共に展示をして、ありし日の国際色ゆたかな福岡平野周辺の様子を紹介したいと思い、特集展示を行うことにしました。3、4つのケースだけを使った小さなコーナーの背景に、東シナ海とその周辺地域に跨る大きな世界を感じていただければと思います。



新出の薩摩塔

今津は12世紀に新たに開かれた国際交易港でしたので、ついに出たかという思いです。元時代のものと見られます。これからこの薩摩塔も新たな資料としつつ、薩摩塔や今津について研究を深めてゆきたいと考えています。この度、御所蔵者の御高配により、この薩摩塔が展示できることになりました。そこでこれまでも展示室に出てもらっていた、大陸系の資料と共に展示をして、ありし日の国際色ゆたかな福岡平野周辺の様子を紹介したいと思い、特集展示を行うことにしました。3、4つのケースだけを使った小さなコーナーの背景に、東シナ海とその周辺地域に跨る大きな世界を感じていただければと思います。

九歴名品探訪

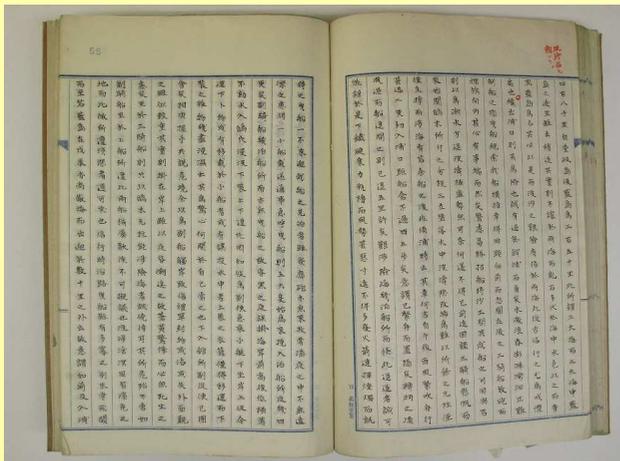
Vol.18

### かいこうそうさい 海行摠載

ちょうせんつうしんし

朝鮮通信使は、江戸時代、朝鮮から日本へ国書を持って派遣された外交使節です。『海行摠載』は、朝鮮通信使の紀行類を集めた叢書で、延享5年(1748)の第10回通信使正使の洪啓禧が編纂し、宝暦14年(1764)の第11回通信使正使の趙曦が記した『海槎日記』を、使節の一員であった成大中が加えて完成させました。正祖24年(1800)に趙曦の子の趙鎮寛が成大中に求めた序があります。

本書は、旧福岡藩士の子で、法政大学名誉教授の藤井甚太郎氏(1883-1958)が、『海行摠載』から福岡藩が関わった部分を抜粋した写本です。第11回通信使は、往路で副使船が相島の海岸で座礁してしまいます。『海槎日記』によると、事故の原因が福岡藩の出迎えの不備にあるとする通信使と、天候不良などのために出迎えの小舟が通信使船に接近できなかったとする福岡藩の意見の相違があったことがわかります。福岡藩の記録『朝鮮人来聘記』(ユネスコ世界の記憶。当館蔵)と合わせて読むと、通信使と福岡藩が意見の対立を乗り越え、座礁した船の解体や代替船の提供などによって、解決に努めた様子がうかがえます。



副使船が相島の海岸で座礁してしまいます。『海槎日記』によると、事故の原因が福岡藩の出迎えの不備にあるとする通信使と、天候不良などのために出迎えの小舟が通信使船に接近できなかったとする福岡藩の意見の相違があったことがわかります。福岡藩の記録『朝鮮人来聘記』(ユネスコ世界の記憶。当館蔵)と合わせて読むと、通信使と福岡藩が意見の対立を乗り越え、座礁した船の解体や代替船の提供などによって、解決に努めた様子がうかがえます。

## 『石仏の健康診断』-四王寺山三十三石仏の保存状態調査-

大宰府政庁跡の背後にそびえ立つ四王寺山は、665年の大野城築城により、古代においては国防の拠点でありました。その後、宝亀5(774)年、山中に四王寺が創建されて以降、この山は、祈りの山、聖地として歩んできました。この歩みは中世を経て、江戸時代後期には、古代の大野城の土塁上に沿うようにして、33体の石仏で構成される「四王寺山三十三観音霊場」が開かれました。これまで、多くの人々に参拝されており、令和元(2019)年には、太宰府市民遺産第15号の認定を受けました。そして、今、太宰府市景観・市民遺産育成団体としての四王寺山勉強会が、地域の大切な文化遺産を守り、伝えていくための活動を行っています。



12番札所 千手観音坐像

ところが、近年、石仏の劣化が顕著になり、保存や継承を脅かす事態が危惧され、何らかの保存対策を検討することが求められました。そこで、昨年、当館と四王寺山勉強会が共同で、保存状態の現況を調査しました。医療に例えるなら「石仏の健康診断」です。



調査の様子

調査の実際は、四王寺山勉強会のメンバーと一緒に、山中に散在する石仏1体ずつ、丁寧に状態を診察し、劣化の症状を記録するカルテを作成しました。これは私たちが病院に行ったときに作られるカルテと同様のものです。具体的な症状をみると、すべての石仏にコケ類をはじめとする生物に由来する劣化がありました。また、体や光背にヒビが生じ、一部が欠けている石仏も多数、ありました。全体をまとめると、石仏の31%に、人間でいうところの治療を要する病気が見つかり、中には重篤な病状の石仏もありました。屋外にある石仏の劣化要因は、石材の物性や周辺環境など、複数の要因が相関するので、解明には詳しい科学的な調査をする必要がありますが、少なくとも、四王寺山周辺の温度や日照、雨量といった気象条件が関わっていると思います。今後は、石仏の定期検診を行い、見守りながら、周辺の環境を調査し、石仏を取り巻く環境を改善した上で、これ以上、病気が悪化しないよう治療を施せないかと考えています。なお、調査成果は報告書にまとめる予定です。

こうした調査によって、この三十三石仏と、参拝する人たち、そして守り、伝えていく人たちの安心・安全が確保され、石仏と信仰の営みが、将来にわたって保存・継承できればと思います。

## パネル展 会場：2階・文化情報広場

「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2024-2025」会期：令和7年3月25日(火)～6月29日(日)

船原古墳に隣接して、6世紀後半～7世紀初頭と思われる馬具や武器・武具を納めた埋納坑が発見されました。本展では科学的調査により新しく発見された成果を写真パネルで紹介します。

「名誉館長パネル展・シルクロードの文化遺産(2) 草原の道」会期：令和7年7月1日(火)～9月21日(日)

かつてユーラシア大陸を結んだシルクロードの道の1つ「草原の道」を、名誉館長講座に合わせて、西谷正名誉館長撮影の写真で解説します。

登録10周年！世界遺産「明治日本の産業革命遺産」会期：令和7年9月23日(火)～12月14日(日)

令和7年度に登録10周年を迎える世界遺産「明治日本の産業革命遺産」を写真パネルにて紹介します。

九州歴史資料館	行事・事業予定
展示	常設展：4月1日(火)～9月28日(日)「歴史(とき)の宝宝箱」 特集展示：3月18日(火)～7月13日(日) 特集展示「きゅうおにとタイムトラベラー大昔の暮らしと国づくり」 6月17日(火)～8月17日(日) 特集展示「新出薩摩塔と福岡の大陸系文物」 7月23日(水)～10月5日(日) 特集展示「木簡入門」 パネル展：3月25日(火)～6月29日(日) 保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2024～2025」 7月1日(火)～9月21日(日) 「名誉館長パネル展・シルクロードの文化遺産(2) 草原の道」 9月23日(火)～12月14日(日) 登録10周年！世界遺産「明治日本の産業革命遺産」
古代体験	毎週日曜日、九歴ボランティアによる「古代体験」を実施（予約不要、有料・無料体験有り）
ミュージアムトーク&バックヤードツアー	毎週日曜日、14時からバックヤードツアー（予約不要 無料）、15時からミュージアムトーク（予約不要 第1・3展示室開催の場合は有料）を実施
講座・イベント	九歴講座：毎月第2土曜日 定員160名 全席指定席（要事前申し込み） タペのギャラリートーク：7月25日(金) 特集展示「新出薩摩塔と福岡の大陸系文物」(井形進) 8月29日(金) 特集展示「木簡入門」(酒井芳司) イベント：4月20日(日) 桜コンサート 5月4日(日) ボランティアイベント「子どもの日工作イベント」 5月14日(水) ボランティアイベント「大人組紐講座 基礎編」 6月8日(土) あじさい祭り 8月2・3日(土・日) キッズミュージアム「きゅうれき絵画教室」 9月17日(水) ボランティアイベント「大人組紐講座 上級編」
発掘調査	県内遺跡発掘調査

※講座・イベントの詳細情報は、当館ホームページやチラシなどでご確認ください。また、内容・開催期間は変更することがあります。詳しくは当館までお問い合わせください。

<b>求善提資料館</b> 〒828-0085 豊前市大字鳥井畑247 TEL・FAX 0979-88-3203	常設展：「求善提修験道の世界」 企画展：4月19日(土)～6月1日(日) 春の企画展「セピア色の風景～昔の絵葉書」&「織～小田原健吾作品展」 7月19日(土)～8月31日(日) 夏のミニ企画展「夏休み 日本のお金世界のお金」(仮) 市民歴史講座：6,7,9,10,11月に開講予定 史跡ガイド活動：申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします。
<b>甘木歴史資料館</b> 〒838-0068 朝倉市甘木216-2 TEL・FAX 0946-22-7515	常設展：朝倉の歴史・考古(縄文時代～近世) 朝倉の歴史・民俗(近世以降の農業、信仰、伝統産業、昔の暮らし) 企画展：6月3日(火)～7月27日(日) 写真展「野田演吉が撮った沖端」(九州歴史資料館三分館合同企画展) 自主展示会：4月13日(日)～4月20日(日) 「夕雅(ゆうか)個展 ～世界平和～」 8月2日(土)～8月9日(土) 「七夕きごう展」 講座：8月上旬「夏休み子ども歴史教室」
<b>柳川古文書館</b> 〒832-0021 柳川市開町71-2 TEL 0944-72-1037 FAX 0944-72-5559	通常展：4月10日(木)～9月28日(日)「日記の世界」 併設展：4月10日(木)～9月28日(日)新収蔵史料 講座：古文書解読講座(初級編・中級編・応用編)毎月1回(第4日曜日) 古文書入門講座 8月中旬から9月上旬の3日間を予定

※各館の行事や休館日(閉室)等については、各館ホームページで確認するか、または直接お問い合わせください。



〒838-0106 福岡県小郡市三沢5208-3

TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834 URL <https://kyureki.jp/>



ホームページ

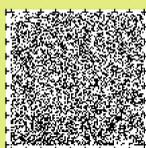


X (旧Twitter)



きゅうれきチャンネル

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)  
 観覧料 一般210(150)円 大学生・高校生150(100)円  
 満65歳以上・中学生以下・障がいのある方(同伴介護者1名)無料  
 ※土曜日は高校生も無料  
 ※( )内は団体料金(20名以上)  
 休館日 月曜日(ただし祝日・振替休日の場合はその翌日)  
 年末年始(12月28日～1月4日)



- 公共交通機関
  - 《西鉄電車》天神大牟田線三国が丘駅から約700m
  - 《JR》鹿児島本線原田駅からタクシーで約10分
  - 自動車
    - 《九州自動車道》筑紫野I.C.から約15分
    - 《大分自動車道》筑後小郡I.C.から国道500号・県道88号線経由で約15分
    - 《福岡都市高速》水城出口から国道3号線経由で約25分

